

新潟県

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 特集 新任職員ガイド

- 2 トピックス 退任のことば
- 3 視点 若者に期待する
- 3 ひろば 居場所探し
- 6 実践記録シリーズ 沼垂地域学
- 7 サークル交流 雄美会 (五泉市公民館) / 広神ふるさと講座陶芸教室 (広神村公民館)
- 7 素顔拝見 森山 健さん (新津市) / 井上正則さん (小須戸町)



白根・味方大凧合戦
味方村

No.615

今年の人事異動に伴う当会役員・委員

退任のことば

〔県公連の一層のご発展を祈念〕

今年も人事異動により七名の役員・委員の方々がご退任されることとなりました。ご退任に当たって左記の項目によりおことばをいただきました。

- ①異動内容・異動先等
- ②在任中、印象に残った事業、事柄等
- ③退任に当たって贈ることば(市町村合併問題への提言等)

①定年退職



前理事
茂筑 元英

②学校週5日制の完全実施に伴い、家庭教育に必要な情報の提供、学習機会の充実等に子ども会、PTAなどの様々な団体と連携しながら取り組んだこと。

③深刻化する少子高齢化社会、国が推進している財政構造改革の中、各市町村においても改革が求められています。市町村合併を、これからの新しい公民館づくりの第一歩として捉えてはいかがなものか。

①定期異動

長岡市企画部長



前副会長
神林 茂

②わずか1年の勤務でしたが、これからの地域づくりを目指したコミュニティ

推進事業や公民館の自己点検・自己評価システムの調査研究に関わらせていただきました。本当に凝縮した1年でした。

③これから市町村合併が一層進む中で、それぞれの地域に根差した公民館の役割がさらに大切になっていくことと思います。公民館の原点である「集い、学び、結ぶ」について改めて考え、地域づくりや人づくりに貢献できる公民館を育ててください。

①定年退職

新潟市民プラザ館長



前会長
今井 昭友

②在職8年。その間全公連理事、監事、関プロ公連会長等を務めたが、立ち止まることの出来ない日々であった。H11—新潟市公民館50周年事業 H12—県公連50周年事業（聖籠町、新発田市で開催）。H13—全公連50周年事業（皇太子殿下がご臨席され、本県の梶瑤子館長が代表謝辞）。H14—関プロ新潟大会（豊浦町で開催）。秋に全公連欧州視察。H15—月報発刊600号達成、A4判化二色刷に切替。
③合併を活かし、創造性に富む魅力的な公民館人でありたい。

①定期異動

燕市生活環境課長



前評議員
高桑紀美江

②12年の県展巡回展をはじめ、まちづくりコーディネーター養成講座の開催、子どもの体験活動支援センターの立ち上げなどが特に印象に残っています。通算すると20数年の在籍になりますが、多くの方との出会い・交流が私の財産です。

③市町村合併が進むなかで、「住民が学ぶ」ことの意味をよく考えてほしいと思います。
・ Learning to know
・ Learning to do
・ Learning to live together
・ Learning to be

①定期異動

糸魚川市教育委員会庶務課長



前理事
黒坂 系夫

②子育て学習や子どもの体験活動など、平成の教育改革に対応

して新たな公民館活動に取り組むことができました。また、県公連をはじめ、上公連、糸西郡市公連を通じて、多くの皆様からご厚情をいただきました。

③市町村合併により住民の学習課題が多くなります。新しいまちの一日も早い一体感醸成のために、公民館が人づくり、地域づくりの主役として活躍されるよう期待しています。

①定期異動

新井市議会事務局長



前理事
広瀬 恒雄

②第54回県公民館大会、集う人600名、願うこと「心豊かな子どもを育てるために公民館の挑戦～世代間交流により文化の伝承と感動を伝える公民館活動を求めて～」。参加者が一丸となり、限りなく熱い思いを昇華させた1日。
③公民館活動は、活動そのものの精神こそが大切。子ども・大人、家庭・地域・学校・企業等が融け合い、限りない熱意と主体的な行動力を以って次代を担う健全な青少年、豊かな人と地域社会を構築することでしょう。

視点

若者に期待する

小須戸町中央公民館 館長 佐藤 貞夫



ご多忙の中、ご寄稿いただきましてご退任の方々の、第二の人生、または新しい所属職域での活躍、ご発展を祈念いたします。ありがとうございます。

ある山寺でのこと、高僧の説法中、急な大雨になった。弟子たちに雨漏りを受ける器を探すように言ったが、貧乏寺に器などあるはずがないと誰も動こうとしなかった。やがて弟子の一人が、策を探して来た。みんなが笑った。雨が止んで、高僧は言った。「策を探して来た雲水を残して、外はみんな帰れ」と。

新潟大学の社会教育主事資格取得を目指す学生五名が、現場研修として来館した。調査研究の要点はこうだ。

(1)花と緑の町づくりや地域の個性を公民館は伸ばせるか
(2)青少年育成と家庭教育にどう取り組み、成果はどうか
その他、これからの公民館は「官」か「民」か等、合併を目前にした公民館の抱える課題をしっかりと掘んでいる。

公民館の「学び」から「活動」そして「創造」へ挑戦する者は、やる気満々の若者だ。厳しい財政事情の中にあっても、公民館職員研修機会の確保と専門職員の計画的な配置を行政に対して、お願いすること切である。



前評議員 河井 裕

①定期異動 栃尾市下水道課 課長
②6年間在籍し、子どもから高齢者までを対象とする、いくつかの事業を担当させていただきましたが、担当した事業の数だけ勉強させていただいたと思感謝しています。
③公民館活動の基本はそれぞれの地域であろうと思います。その地域に根ざした取り組みをやっていくこと、地域の住民とともに公民館活動を考えることが大切ではないかと思えます。公民館に働く皆さん、自信を持って進んでください。

居場所探し

聖籠町公民館運営審議会委員 大倉 幸子

ひろば

結ハート聖籠に居て、年代や活動の違う方々に会えたことを嬉しく感じています。反面、遊びに利用してくれる子どもたちの中には、公民館活動の事業にも何処にも属さない行く所が無いという子どもたちもみられ、結ハートは、子どもたち



公運審委員 必読の書

今春、初めて公運審委員になられた方への必読の書をご案内いたします。

「公民館運営審議会委員の手引」改訂版

一部 500円+送料実費
申込み先

新潟県公民館連合会事務局

TEL・FAX〇二五―二三四―六〇七三

員ガイド

○東京都多摩市立永山公民館では、「子育て便利帳を作ろう」という講座を、子育て中の母親たちに参画してもらい、市に提言することをねらいとして開催しています。また、住民の力を生かして公民館を活性化しようと、住民が企画・運営する「市民企画講座」も開設しています。この講座は、学習成果の地域への還元と新たなネットワークづくりにつながっています。

○千葉県佐倉市立中央公民館では、高齢者が生きがいを持って、住みよいまちづくりを考える講座「佐倉市民カレッジ」を開催しています。2年間のコースを卒業した後に、カレッジで学んだことを生かして地域の中で率先して活動できる人材育成を目指しています。

○栃木県都賀町中央公民館では、公民館事業に高校生の「都賀町ジュニアリーダーズクラブ」が参画しています。その高校生の多くが小学生の頃にジュニアリーダーズクラブにお世話になった経験を持っており、地域の大人・高校生・小学生のつながりの強さが感じられます。

○千葉県柏市中央公民館では、ボランティアの力を活用してパソコン入門講座を開催し、住民の高いニーズにえています。また、インターネットを活用した講座も開催し、時間的制約などで公民館を利用できない方の参加を得ています。

その他、岡山県岡山市立中央公民館の「まちづくり講座」では、まちづくりについて講座生全員で協議し、市民に提案しています。また、大阪府阪南市立西鳥取公民館では、障害者理解を図るための各種講座を開催しています。上記のほか、各地で特徴的な取組が展開されています。

新潟県内でも、「特色ある家庭教育支援事業」、「大学生等、青少年を参画させた事業」、「広域市町村連携事業」、「地域課題を取り上げたまちづくり事業」等、全国的に見ても先進的な取組が行われており、他県からも注目されています。

4 大切にしていきたい視点

最後に、今後の職務で大切にしていってほしい

ことを書いてみます。

① 国や県の動向把握に努める

国や県では法律や条例の改正が行われ、各種審議会でも答申が多く出されています。住民はその情報をインターネット等により迅速に得ています。住民のための施策を考える行政職員は、住民よりも早く情報を得て、施策を考える必要があります。自らのアンテナを常に高くし、国や県の動向把握に努めてほしいと思います。

② 特色を生かした事業を創造する

市町村合併が盛んに進められていますが、住民の方々にとって、今住んでいる市町村は大切な地域です。住民の方々が自分の住んでいる地域を愛し、誇りを持てるようにするために、今こそ市町村の特色を生かした単独事業を創造していってほしいと願っています。

③ 青少年を参画させた事業運営

新しい社会を担う青少年を、いかに公民館事業に参画させていくかが今後ますます重要になると考えます。全国の取組事例でも触れましたが、それぞれの公民館で青少年をどのように参画させていくかを真剣に考えてほしいと思います。学校でも、総合的な学習の時間や体験的な活動で地域とのかかわりを持つと努めていますので、話し合いの機会を持つこともよいと考えます。

④ 衛星通信を活用した学習機会

現在、国や大学等では「衛星通信を活用した講座」を多く開設しています。情報機器を有効に活用し、地域住民のための学習機会を充実させていってほしいと思います。

いろいろと書いてきましたが、公民館職員として「創造」を念頭に置き、住民との積極的なかかわりを通して地域課題や要望事項の把握に努め、「課題解決のために今何が必要か」についての自分の考えをしっかりと持っていってほしいと思います。皆様の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

特集

新任職

新発田市立二葉小学校長
前国立教育政策教育研究所
社会教育実践研究センター
社会教育調査官
真柄 正幸



公民館の新任職員として、新しい職務に真剣に取り組んでおられることと思います。

皆様の職務に少しでも役立つように、国・県・市町村で社会教育に携わった経験をもとに書いてみたいと思います。

1 今日の動向

まず、公民館を取り巻く状況がどのようになっているかを見てみましょう。

現在は第三の改革とも言われ、地方分権社会の実現に向けた改革が進められています。第一が明治維新、第二が第二次世界大戦後の中央集権社会を指していますので、いかに大きな改革の時期かが理解できると思います。

地方分権社会では、国・県・市町村が上下の関係から対等・平等の関係に変わります。そこで、市町村は制度・予算面で自立し、自らの方針の下で主体的な取組を行うこととなります。住民のために「何ができるか」「何をしているか」が今まで以上に問われます。施策への住民参画のしくみや情報公開、説明責任も求められます。

また、教育面でも、第三の教育改革とも言われ、生涯学習社会の実現に向けた改革が進められています。生涯学習社会とは、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会において適切に評価されるような社会」(平成4年生涯学習審議会答申より)です。国では、中央教育審議会等の答申をもとに実現に向けての取組が行われています。

このように現在は、誰もが過去に経験したことのない改革のまっただ中にあることをご理解いただきたいと思います。

2 生涯学習と社会教育

次に、「生涯学習」と「社会教育」との関係について少し触れてみたいと思います。

昭和56年の中央教育審議会答申では、「これからの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。この意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。」と述べています。このことから、生涯学習とは、「①各人＝国民一人一人が行う学習」であり、「②自発的意思に基づいて行う」ことを基本とし、「③自分が必要と思ったときに」、「④自分に適した手段・方法を自分自身で選んで」、「⑤生涯を通じて行う」学習であると言えます。また、同答申では「国民一人一人が充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習」と述べており、生涯学習の目的が示されています。

社会教育との関連では、平成2年の中央教育審議会答申で、「生涯学習は、学校や社会の中で意図的、組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるもの」と述べられています。このことから、生涯学習は社会教育や学校教育を含む概念である。また、ボランティア活動やまちづくり活動など幅広い分野にわたっていることが理解できます。その幅広い分野の多くを占める社会教育は、生涯学習社会における中核として重要な役割を担っていると言えます。

公民館では、社会教育法における「社会教育の定義」に基づいて運営されますが、生涯学習との関係をきちんと理解して仕事に携わっていただきたいと思います。

3 全国の取組事例

それでは、全国の公民館ではどのような取組をしているのでしょうか。住民参画の視点で特色ある公民館の事例を少し紹介したいと思います。

実践記録 74 シリーズ

沼垂地域学～ 学校と地域の連携グループ

【出前講座「栗ノ木川」】

前新潟市東地区公民館長 浅野 雅生



栗ノ木川調査活動

1 沼垂地域学へ 小学校の先生が参加

平成15年度から当館の事業（地域の歴史を考える）として、沼垂地域学を開催した。そこには、沼垂小学校の先生が4人も参加してくれた。学校が総合学習で地域に発信する際に、地域の受け皿として地域学が重要だという考えからだった。

沼垂地域学は、3つのグループをつくり、その一つが「学校と地域の連携」グループだった。そのグループの活動として、沼垂小学校5年生の総合学習と連携し、出前講座「栗ノ木川」を開催することになった。

2 子どもと一緒に学ぶ 出前講座「栗ノ木川」

学校の計画に合わせた連携事業で、2回目の10月14日の栗ノ木川ウォッチングは当館で主催した。昭和23年に建設された竹尾排水機



栗ノ木川ウォッチング

場は、当時東洋一の施設だった。今は骨格がまだ残り、当時の面影を残しているが、雑草が生い茂り緑多い場所になっていた。町歩きの一つのコースとして面白いところだった。

3 連携して分かったこと ～住民が小学校の体育館に 集まった

(1)総合学習には教育ボランティアが重要なこと

①総合学習を深めるためには、なるべく多く充実した校外体験学習をする必要があるが、

そのためには担任の先生だけではスタッフ不足である。

②総合学習では、一人ひとりの子どもの問題意識や思いを大事にしていく必要があるが、グループ学習でもなるべく多くのグループに分ける必要がある。先生だけでは無理がある。
(2)学習の相棒として小学生は頼りになる存在

①地域学の1コマでも地域の取材があったが、結局、取材は予約した味噌工場の社長さんのインタビューだけで、町歩きのみで止まった。

しかし、子どもなら、住民も突然家を訪問しても気軽に昔のことなど話してくれた。

②発表会にも、小学生(80人)が住民を個別招待(1人20枚)し、約80人といつもと同じでない人達は大勢参加した。

地域住民の意識や行動の変容をはかるためには、子どもとの、小学校との連携が必要である。

4 これから～沼垂小学校6年生総合学習(まちづくり)との連携プラン

当初から連携し、公民館側も学習プログラムを持ち、同時に子どもと共学し、発表も一緒にしていきたいと思っている。

今年の4月18日に、「踊れ栗ノ木川桜祭り」と栗ノ木川川辺で子どもと地域の人たちで行うことを計画している。

すでに1月に小学校の先生と地域のグループ、有志でゆるやかな連携を目指す実行委員会を立ち上げ、着々と準備を進めている。

出前講座「栗ノ木川」プログラム

9月26日(金)	栗ノ木川を探検(阿賀野川の取水口沢海から亀田郷芦沼館、鳥屋野湯、山ノ下開門まで)
10月14日(火)	栗ノ木川ウォッチング(沼垂小学校から竹尾排水機跡まで)
10月21日(火)	栗ノ木川調査活動(5年生が21グループに別れ野外調査・川の汚れ・川の流れ・ゴミ・魚・植物等の調査)
10月22日(水)	同上(グループで住民へ聴き取り調査等)
11月4日(火)	ポスター・セッション(学校体育館で住民を招待して発表会、インタビューに応じた約80人の参加あり)
11月5日(水)	企画会議(担任教師らとワークショップの内容を協議)
11月14日(金)	再生に向けた子どもたちの活動(ヘドロ消去の実験など)
11月26日(水)	公開“シンポジウム”栗ノ木川再生に向けた活動のプレゼンテーションがあった

洋画を通じた仲間づくり

雄美会

雄美会は、平成12年11月、五泉市公民館洋画教室の参加者21名で愛好会としてスタートしました。

発足のきっかけは、洋画教室を卒業すると講師の石川雄二先生や生徒間の交流が途絶えて寂しく、一人では学習意欲も湧かず困ってしまおうという話からでした。

そこで、生涯学習として余暇の有効活用と新しい仲間づくりを目的に「雄美会」を結成し、はや4年目となります。



その間、会員も34名と増え、今年には作品展も開催しました。学習会は月2回で、写生会にも出かけます。

洋画に興味のある方、私たちと一緒に楽しんでみませんか。会員一同心より歓迎いたします。

五泉市・雄美会
丸山 巖 記



世界に一つだけの器

広神ふるさと講座陶芸教室

この陶芸教室は「物の豊かさから心の豊かさ」を基本に、「いきいきと輝く人・地域づくりへつなげよう」を合言葉にした生涯学習「広神ふるさと講座」15講座の一つです。



8年目に入った講座には、毎年15名程の受講生が集まります。頭の中では、素晴らしい器があるようですが、できあがる作品は、頭の中のものとは、まったく異なるもの。それも個性であり、世界に一つだけの器とほとんどが自己満足の世界。それでも、器を作ることでではなく、教室内での年齢を超えた交流も、大きな財産になると思います。

秋の文化祭では、コーヒークップを展示して、受講生による「小さな喫茶店を開店」

「さあ、召しあがれ。」
広神村 陶芸教室講師
青木 進 記

公民館勤務1年目の思いを率直に、彼は語る。

- (1) 大勢の人の笑顔に出会えるのがうれしい
 - (2) 顔と名前を1人でも多く覚えていきたい
 - (3) 社会教育に対する「自分の姿勢」を持ちたい
 - (4) 人とのかわり方を積極的に学んでいきたい
 - (5) 何にでも挑戦して、自分を開拓・発見したい
- やる気満々の頼もしい24才、わが中央公民館期待の星である。



小須戸町教育委員会社会教育係
主事 井上正則さん

仕事熱心、研修熱心であるが、融通のきかない堅物ではない。酒は強いし、付き合いは抜群にいい。懇親会の幹事は進んで引き受け、小道具まで作ってみんなを引き入れ、座を盛り上げてくれる。スキー、スケボー、スポレック、スポーツ万能だから、体育講座の担当、若い人達に人気がある。公民館の活性化になくてはならない人材である。(小須戸町中央公民館長 佐藤貞夫 記)

森山さんは、公民館月報12月号の表紙を飾りました「親林プログラム」という講座運営を担当しています。持ち前の責任感と行動力で、決して手を抜くことなく、参加者に喜ばれるためにと、講師との綿密な打合せを重ねながら、里山へ何度も足を運ぶ姿にいつも心を打たれます。もちろん毎回講座は大盛況で、参加者からは喜びの声が寄せられています。



新津市教育委員会生涯学習課
主査 森山 健さん

また、明るく、ユーモアのある森山さんは、職場でも人気者で、森山さんの周りには、笑顔や笑い声が絶えることがありません。いつも優しい心遣いと的確で素早い行動力で皆をリードしてくれる生涯学習課になくてはならない頼もしい存在です。これからまた忙しい季節となりますが、健康に留意され、頑張ってください。(新津市教育委員会生涯学習課 大野博美 記)

素顔拝見

恵贈資料紹介

市町村合併問題への対応

新潟県公民館連合会 市町村合併問題調査検討委員会

全国に先駆け、昨年6月わが県公連では市町村合併問題調査検討委員会を立ち上げ早速その対応に入った。

まず7月の第54回新潟県公民館大会で「市町村合併と公民館についての緊急アピール」を提案、決議したが、これは後の第44回関プロ研究大会及び第26回全国研究集会のアピール文にもつながった。

内容は、○県内の合併協議会・研究会の設置状況 ○県



公連市町村合併問題調査検討委員の対応経緯・委員会議の概要・活動の総括 ○社会教育専門誌及び新潟県公民館月報登載記事等から、第44回関プロ大会第15分科会での当県発

表資料及び記録・市町村合併に挑戦する新潟市公民館・市町村合併を考える(松之山町公民館) ○県外先進地視察報告では、静岡市、さいたま市、富士河口湖町、修善町等から構成されているが、全国的にも貴重な資料となっている。

・新潟県公連事務局 TEL・FAX ○二五―三二四―六〇七三

Net work ネットワーク

第55回 新潟県公民館大会開催要項 兼第52回中越地区公民館研究大会開催要項

大会主題 地域力と協働を生かしたこれからの公民館 ～まちづくりを進める公民館活動のあり方～

- 1. 趣旨 省略
2. 主催 新潟県公民館連合会 中越地区公民館連絡協議会
3. 共催 新潟県教育委員会 新潟県公民館振興市町村長連盟 長岡市教育委員会
4. 主管 長岡市中央公民館 見附市中央公民館 柿尾市公民館 越路町公民館 三島町公民館 与板町公民館 和島村公民館 出雲崎町公民館 寺泊町公民館 山古志村公民館
5. 後援 省略
6. 日時 平成16年7月16日(金) 午前10時 開会
7. 会場 長岡市立劇場 〒910-0084 長岡市幸町2-1-2 TEL.0258-33-2211
8. 参加者 市町村長、同議会議員、同議会議員、同教育委員、同社会教育委員、同公民館運営審議会委員、同公民館館長、主事、職員、社会教育主事、社会教育指導員、学校教職員、社会教育関係団体役員、一般市民

Table with 2 rows and 5 columns: 9. 日程 (9:30-10:00, 10:30, 12:00-13:00, 15:00-15:20) and 10. 基調講演 (9:30-10:00, 10:30, 12:00-13:00, 15:00-15:20)

- 10. 基調講演 演題 人育て：学校づくり・まちづくりは三位一体で！ ―「総合の発想」で楽しく元気に地域力の向上を― 講師 岸 裕司様
11. 実践事例発表者
12. 参加費 県公民館大会資料代 2,000円
13. 申込み
14. 大会事務局 〒910-0072 長岡市柳原町2-1

①参加者は別紙申込書により、市町村ごとに取りまとめの上、6月25日(金)までに大会事務局へ申し込んでください。(FAX、メール可)
②参加費は、当日会場にて受付時に納めてください。
③「大会参加証」「受領証」をお渡します。
④「大会参加証」を提示し、大会資料等を受け取っていただきます。
⑤参加申し込みの取り消しは、7月2日(金)までとし、それ以降は準備の都合上大会参加費を納入いただきます。

event

いつでも、どこでも、自分の希望する講座を

information



あ と が き 5月には諸会議が目白押しです。県公連理事会・評議員会、関プロ公連理事総会、中・下公連評議員会、役員会等が予定されております。

第55回県公民館大会も、開催地長岡市を中心に、中公連の組織も始動し、開催案内も近々予定どおり発送できそうです。多数の方の参加申込みを期待しております。(鈴木 記)

表紙解説 「白根・味方大合戦」(味方村) 毎年6月の第1木曜日から5日間、中ノ口川を挟んで白根市と味方村の大風の戦いが繰り広げられます。